

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にさせていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレイへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを獲る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



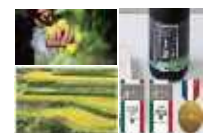
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確認する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区 一覧 (広島県)

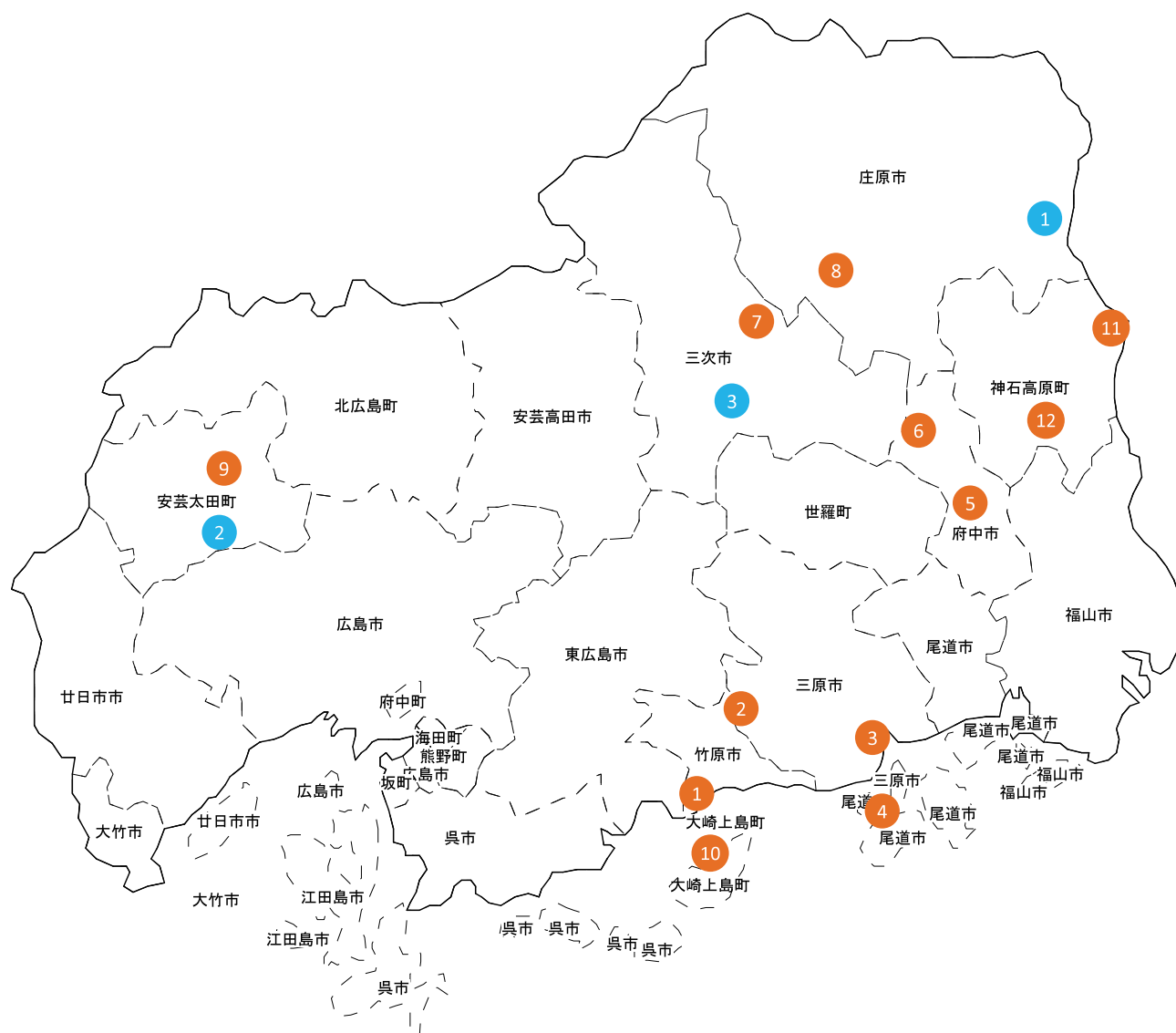
No.	選定地区	部門	市町村	地区名	該当する取り組み		
①		団体	竹原市	吉名じゃがいもプロジェクト since 2019	6次産業化	荒廃農地対策	食育・教育
②		団体	三原市	株式会社八天堂ファーム(八天堂ぶどう園)	農福連携	6次産業化	雇用
③		団体	三原市	広島みはらプリンプロジェクト実行委員会	6次産業化	地産地消	企業との連携
④		団体	尾道市	カンキツスタンドオレンジ	農業	6次産業化	関係人口の創出
⑤	奨励賞	団体	府中市	一般社団法人 協和元気センター	伝統の継承	高齢者の活躍	荒廃農地対策
⑥		団体	府中市	一般社団法人 天領上下まちづくりの会	伝統の継承	農泊	農村環境・景観保全
⑦		団体	三次市	株式会社 福田農場	荒廃農地対策	6次産業化	農村文化体験
⑧		団体	庄原市	広島県立庄原実業高等学校	農村環境・環境保全	食育・教育	学生・若者の活躍
⑨		団体	安芸太田町	広島県立加計高等学校	企業との連携	荒廃農地対策	学生・若者の活躍
⑩		団体	大崎上島町	一般社団法人 まなびのみなと	地産地消	食育・教育	学生・若者の活躍
⑪		団体	神石高原町	有木自治振興会	農泊	農村文化体験	関係人口の創出
⑫		団体	神石高原町	株式会社 BINGO	ジビエ	鳥獣被害防止	女性の活躍

第10回記念賞応募地区

No.	部門	市町村	地区名	過去の選定実績
①	団体	庄原市	粟田川流域農地・水・環境を守る会	平成26年度(第1回)選定
②	団体	安芸太田町	津浪振興会	平成28年度(第3回)選定
③	団体	三次市	川西自治連合会	令和4年度(第9回)選定

応募地区位置図（広島県）

※ 青は第10回記念賞応募地区



よしな しんす
吉名じゃがいもプロジェクト since 2019

～吉名じゃがいもの認知度アップを目指しています～



収穫したじゃがいも 1600kg



活動応援店による 畑で収穫祭

経緯

○過去日本一であった吉名じゃがいもが廃れていくのが悲しく、地域活動をする中で出会った方が、じゃがいも生産に関わっている方であったことや、実際に住んでいる吉名中学校区の学校の児童生徒がじゃがいも生産や販売も行っていたことから、一人ではできないことも声をかけてやればできるかもしれないと思い立ち上げた。

取組内容

○じゃがいも植え付けや収穫体験の参加者を募集、その中から新規に就農してみたい方を受け入れ作業を覚えてもらってから、耕作放棄地になりそうな畑の持ち主とつなぐ。
○収穫したじゃがいもは、活動応援協賛店（竹原市7軒ほか、東広島市、呉市等）で料理してもらい、SNSでPR。
○規格外じゃがいもを使った、かりんとうの発売や、じゃがいもの大学芋を地域のホテルと共同開発。

活動の効果

○地道にPRを続け、農業に興味がある方へ体験参加者からの発信を繰り返し継続することを基本に3年活動をしてきたが、少しずつ「頑張って」と応援の言葉をいただけるようになり、人づてで新規の参加者が来られるようになってきた。
○竹原市ケーブルテレビで活動の体験などを放送。広島FM、中国新聞からの取材もあり、JAや地元企業の協力を確保。
○現在、体験参加に来たミュージシャン仲間とPR音源を製作中。

応募団体からのアピール・メッセージ

プロジェクトメンバーのほとんどが農業未経験者です。
未経験の方でも安心して作業ができるように農業関係者の方がいろいろご指導くださいますので、私たちと一緒に楽しくじゃがいもを育ててみませんか？

住所・電話番号・SNS等

<https://yoshinapotatoes2019.jimdofree.com/> <https://www.facebook.com/yoshinajyagaimokko>



かぶしきがいしゃはってんどう

はってんどう

えん

株式会社八天堂ファーム(八天堂ぶどう園)

～商工農福連携でサステナブルな未来を描く～



オーナー不在の竹原市のぶどう園を再生



令和5年 新ブランド「果実なくリーむパン」

経緯

- 令和3年1月より、広島県竹原市のぶどう園を八天堂と社会福祉法人宗越福祉会で引き継ぎ、「八天堂ぶどう園」の運営を開始。
- 生活困窮者の就労と自立を支援し、収穫物に付加価値を付け収益性を高めることを目指し、令和4年5月に(株)八天堂ファームを設立、商工農福連携のビジネスモデルの確立を目指す。

取組内容

- 令和3年4月に支援対象者を初めて受け入れ、圃場の再生と栽培事業を開始。初年度は8,000㎡で10品種のぶどうを栽培。2期目にはノウフクJAS認証を取得。
- 令和5年には岡山の農福連携事業者から苺を調達し、ジャム加工を施し、新ブランド「果実なくリーむパン」として販売。
- 令和5年11月に八天堂ファームの商品をはじめ全国のノウフク連携事業者の商品を購入できるサイトを開設。

活動の効果

- 収穫したぶどうは、地元大手スーパー基幹店でSDGsに資する商品として採用された。
- 社会福祉法人 宗越福祉会との連携は現在ではぶどう園の運営の協業の他、商工農福連携のモデルの展開と社会への役立ちに発展。広島県立黒瀬高等学校、一般社団法人猫の手も加わり、福祉人材教育を目的とした4者連携に関する協定を締結し、将来の福祉人材を育成。
- ノウフク・アワード2022チャレンジ賞を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

八天堂ファームでは、「農福連携」に2次産業、3次産業を組み合わせた「商工農福連携」を提唱し、果物や野菜に物語や加工を組み合わせることにより付加価値を生み出し、「農福連携」そのもののサステナビリティを高めることを目指しています。

住所・電話番号・SNS等

(株) 八天堂ファーム・ECサイト <https://hattendofarm.co.jp/> <https://hattendofarm.shopselect.net/>



ひろしま

じっこういいんかい

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会

～「ゆめ」をつめて 「まち」をひとつに～



各種催事では約15～20種のプリンを販売



年1～2回発行するガイドブック「おでかけプリン」

経緯

- 海と山に囲まれた広島県三原市には、季節を彩る果実や野菜、牛や鶏、瀬戸内海のタコや魚など、海・山・里の幸が豊富。
- 豊かな自然と三原の人々が育んだ食材を全国PRしていくためには官民連携して推進する必要があると感じ、様々な食材を巻き込むコンテンツとして「プリン」を使ってまちおこしをしていくことに決定。

取組内容

- 三原市や特産品を全国に発信するとともに、一次生産者などの所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上が目的。
- 「三原の食材を一つ以上使用」「三原を応援する人(店)」が作ったプリンであれば、随時認定。三原を応援してくださる人やお店であれば、市外の方でも参加可能。
- 首都圏への販路開拓として、千葉県企業と協業して三原の特産品を販売するショップを開設し、広島みはらプリンも販売。

活動の効果

- 令和4年度までの通算で102件の媒体に掲載をいただいた。積極的にHPやSNSを活用する他、紙媒体で年1～2回認定プリンを紹介するガイドブック「おでかけプリン」を発行し、参加店を周遊してもらえる機運を醸成。
- 令和4年度の催事出店は、市内9か所、市外15か所、県外3か所の合計27か所の74日間出店し、参加店の売上(所得)向上にも寄与しているほか、地域内消費の拡大の結果、農・畜・水産業の一次生産者の所得向上にもつながってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

三原の美味しくて郷土の誇りである特産物を、親しみやすいプリンにすれば、三原市民みんなが参加して、魅力を伝えることができるはず。そんな想いをプリンに込めました。「広島みはらプリン」で、新しい美味しさと三原の隠れた魅力に出会えるでしょう。

住所・電話番号・SNS等

HP・インスタ <https://広島みはらプリン.jp> https://www.instagram.com/hiroshima_mihara_pudding/



カンキツスタンドオレンジ

～柑橘と地域の魅力を伝えていくスタンド～



店舗で販売をしているジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と共同開催をした
ジュースの試飲会

経緯

○事業責任者が尾道市瀬戸田町に移住したことをきっかけに柑橘農家との関係が始まり、多くの課題があることを知るなかで、柑橘ジュースの販売に可能性を見出す。複数の農家の協力を得ながら、柑橘ジュースの提供を軸とした柑橘専門店をJR尾道駅に令和4年夏オープン。柑橘ジュースによる柑橘農業の6次産業化への活路を見出す。

取組内容

○3つの課題(①収穫(冬)と観光(春～秋)でシーズンが異なる②育てられている様々な品種それぞれの柑橘の特徴が認知されていない③柑橘ジュース等加工品の販売に苦戦)を解決するべく、令和4年7月に尾道市瀬戸田町の柑橘を専門に取り扱う柑橘ジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。
○柑橘ジュース3種の飲み比べ、かき氷やアルコール飲料を提供するほか、自社加工のジャムやオリジナルTシャツ等のグッズ販売も行う。

活動の効果

○当初、取引できる生産者が3軒のみだったが、現在では搾汁を行う生産者も10軒に増え、現在は品種と生産者が異なる23種類の柑橘ジュースを取り扱う。
○地域の柑橘ジュースの品質を高めるべく、生産者とカンキツスタンドオレンジで販売する果汁の合同試飲会を実施。
○実店舗だけではなく、広島市内や東京都内でのイベント出店も積極的に行い、尾道市瀬戸田町の柑橘をPR。

応募団体からのアピール・メッセージ

「柑橘の美味しさ、奥深さ、面白さを伝えたい！」そんな思いから、瀬戸田を中心とした柑橘専門店として、JR尾道駅内にオープンしました。想像以上に味わい深い柑橘ジュースをぜひお楽しみください！イベント等への出店も積極的に行っておりますので、お気軽にお問合せください。

住所・電話番号・SNS等

店舗・JR尾道駅1階東側

HP:<https://kankitsustand.stores.jp/>

https://www.instagram.com/kankitsustand_orange/

奨励賞

いっばんしゃだんほうじん

きょうわけんき

一般社団法人 協和元気センター

～温故と絆の探求～



和紙作り教室



アンテナショップ「NEKI」へ出品

経緯

- 過疎化・少子化が進み、保育所・小学校・中学校がなくなるとともに、地域のつながりも薄れた。また、生活様式の変化からかつて栄えた地域の伝統産業・文化も衰退している。
- 地元の有志が話し合い、江戸時代に福山藩の特産物として生産が始まり400年の歴史を持つ「阿字和紙」を復活させようと(一社)協和元気センターを立ち上げた。

取組内容

- 地元の小学生の紙すき体験教室を中心に事業を始め、紙すきのノウハウを積み上げ様々な商品を開発。
- 行燈・うちわ・ご朱印帳など、府中市の東京のアンテナショップ「NEKI」でも販売。
- G7サミットでは各国首脳への贈呈品(花瓶)の包装紙として阿字和紙が採用された。
- 高齢者を支援する活動として、デマンドタクシーの運営やコミュニティ・キッチンの開催等も実施している。

活動の効果

- G7サミットへの製品採用に向けて、和紙の厚みや滑らかさ等要求された高い品質基準をクリアするため試行錯誤する中で、科学的見地から作業するノウハウを得た。
- 府中市観光協会と連携する中で、国登録有形文化財の元料亭旅館「恋しき」では阿字和紙の行燈が飾られ、テレビや新聞で取り上げられ製品の認知度が高まった。
- ミツマタを耕作放棄地に植樹したことにより、和紙の材料の安定的な確保だけでなく、荒れた農地が減ることで日本の農村の原風景の維持に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

府中市観光協会との連携を強化し、コロナ禍後に想定されるインバウンドをターゲットに、紙すき体験を「コト消費」として呼び込みを図る。G7サミット向けの製品づくりで獲得した成果を活かし、阿字和紙を世界に発信！

住所・電話番号・SNS等

HP・YouTube <https://kyowa-gc.net/> <https://www.youtube.com/watch?v=-3dU4uAm1Ok>

いっばんしゃだんほうじん てんりょうじょうげ か い
一般社団法人 天領上下まちづくりの会

～石見銀山の出張陣屋として栄えた金融の町並みを未来へ～



天領上下ひなまつり「でこ市」の賑わい



修復後の翁座の『まちづくりシンポジウム』

経緯

○江戸幕府の直轄地として栄えた歴史文化や白壁の町並み等の観光資源はあるが、人口減少、高齢化や空き家問題が進み、休止となっていた町づくり活動を継承し、平成26年上下まちづくり協議会を設立。令和4年に同会を(一社)天領上下まちづくりの会として法人化し、重要伝統的建造物群保存地区の指定と地域を未来に残す活動の拠点に。

取組内容

○石見銀山の出張陣屋として栄えた金融の町並み保全と、歴史や観光資源を活用したまちづくり。
○築100年を迎える中国地方唯一現存している木造の芝居小屋「翁座」、上下キリスト教会、旧片野製パン所、上下町商工会館等の修復作業。
○ひなまつりイベントを「この街が好きキャンペーン」とし、町内の良い所探しやリモートでの学習会などを定期的開催。

活動の効果

○平成17年から開催している、天領上下ひなまつりの参加者数がコロナ禍以前のレベルに回復。
○令和3年度から開館した芝居小屋「翁座」(土・日・祝日10時～15時に開館)の入館者数増加。
○令和2年度から開館した泊まれる町家「天領上下」の宿泊者数増加。
○インサイドジャパンツアー開催の外国人ツアー参加者数が回復。

応募団体からのアピール・メッセージ

「生きている白壁の町並み」のもとに上下町民が代々受け継ぎ守ってきた建築物群を、「生きていける白壁の町並み」として未来へ継承していくことが、上下の歴史ある町並みに生き、まちづくりを受け継いだ我々の責任だと心に刻み、取り組みを続けていきます。

住所・電話番号・SNS等

Facebook:一般社団法人 天領上下まちづくりの会 HP:<https://jogetenryo.com>

かぶしがいしゃ ふくだのうじょう

株式会社 福田農場

～経営規模拡大しても「地域と共」に集落営農～



市民農園使用者に収穫指導



農村の食文化を堪能できる収穫感謝祭

経緯

- 三次市の西組営農組合では、組合員の高齢化、担い手不足による農地の遊休化、荒廃化を防止することが課題であった。
- 持続可能な営農展開のために法人経営が切望される中、後継者のUターンをきっかけに農業法人を設立し、住民と連携した2階建方式の集落経営の仕組みを構築。

取組内容

- 三次市の市民農園管理を受託し、芋ほりによる消費者との農業交流体験を行うほか、秋には収穫感謝祭を開催し農村文化で交流を深める。
- 組合員の就労機会の提供を目的に、味噌をはじめとする農産加工品づくりに取り組み、三次市内4つの小学校の給食用に味噌を供給。
- 自社が生産した米を製粉して米粉パンを製造し、店頭販売のほか訪問販売を行う。

活動の効果

- 農業法人設立当初の経営面積は36haであったが、従業員の主体性と連携を作業の基本とし、きつい農業イメージの脱却を掲げ、令和5年は77haとなっている。
- 組合員と共同で製造している農産物加工品は、米粉パン、味噌、餅、コンニャク、総菜など、多彩な加工品を販売し、組合員の雇用と給与還元による経済循環に繋がり、高齢者の生きがいとなっている。また、味噌を供給している小学校の生徒からは「味噌は福田農場の味噌でなくては」との声も伝わっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

集落の住民と連携しながら、水稻＋農作業受託＋農産加工販売＋市民農園管理の複合経営を継続し、今後は、新規就農者の研修農場として人材の育成に指導的役割を果たしていきたい。

住所・電話番号・SNS等

三次市和知町2682-2 Tel:0824-66-2765

ひろしまけんりつしょうばらじつぎょうこうとうがっこう

広島県立庄原実業高等学校

～生徒が先生！ヒゴタイ保全と体験と学び支援～



保育園の農業体験



生徒による小学校でのヒゴタイの講義

経緯

- 過疎・少子高齢化、若者の都市部流出等、中山間地の課題が凝縮している中、「市外に出てもいつかは帰りたくなる故郷づくり」への貢献を目指している。
- 平成15年ころから、集落資源の保全活動、児童・園児との体験交流、学習支援を通じた実践的な学びの展開、地域をフィールドにした探求学習に取り組んでいる。

取組内容

- 市内の2保育園、2小学校と連携し、手作業によるサツマイモと稲の植付・収穫の体験指導を行う「ワクワク農業体験指導」は、開始から20年を経過している。
- 小学生の提案により地域住民が「ヒゴタイ会」を平成12年に結成。平成25年から本校が連携し、絶滅危惧種ヒゴタイの自生地拡大活動、小学生向けにヒゴタイの学習講義を行い「ヒゴタイは地域の宝」と盛り上げ、市民を巻き込んだ活動につなげている。

活動の効果

- 「ワクワク農業体験指導」を行う生徒は、学習成果を発揮する場となり、適切なコミュニケーションの形成、学習意欲の向上につながっている。
- 農家の子供でも農業体験が激減している中、体験に参加した児童・園児が本校に入学し、指導的役割を果たしている例も少なくない。
- 講義を行った小学校で「ヒゴタイは地域の宝」と盛り上がり、市民を巻き込んだ活動の継続、広がりにつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域産業の未来志向型アグリビジネスプレイヤーを目指し、地域をフィールドにした地域課題解決の探求学習に、生徒主体で取り組んでおり、希望と期待を抱ける一次産業の再生方策を生徒視点で探究し発信し続ける。

住所・電話番号・SNS等

庄原市西本町一丁目24-34 Tel:0824-72-2151

ひろしまけんりつけかけこうとうがっこう

広島県立加計高等学校

～かわいがられ、地域貢献する加計高校～



小学生対象の夏休みイベント



菊芋を用いた新スイーツ開発

経緯

- 少子高齢化が進行する安芸太田町は、移住定住促進策を推進していて、若者の「仕事づくり」が最重要課題として位置付けられていた。
- 環境資源や農産物などを若者が最大限活用して、ローカルビジネスとして創造することができる地域社会の形成が喫緊の課題となっていて、高校においても町の活性化に寄与したいと考えた。

取組内容

- 令和元年度に始まった「ミライ探究プロジェクト」は、生徒が地域住民等と連携して、地域課題の解決に向けた様々なプロジェクト（小学生対象の夏休みイベント、菊芋を用いた新スイーツ開発、マルシェ活動等）の企画・運営に取り組んでいる。
- 中間発表会等で、地域コーディネーターや協議会委員等の助言を受けながら、目標・課題を意識して取組内容のブラッシュアップを図っている。

活動の効果

- 町の地域資源を活用した特色ある活動を継続することで、地域の活性化に繋がっている。
- 令和5年度の入試では県外から30名を超える志願があり、県内トップの受検倍率(2.2倍)となった。
- ミライ探究プロジェクトの活動は進路希望に応じた課題研究企画であり、国公立大学の総合型入試等の合格にも繋がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

生徒と地域住民・地元企業等との連携協働体制を構築し、地元を愛し、起業家精神を持つ人材を育成しています。

住所・電話番号・SNS等

安芸太田町大字加計3780-1 Tel:0826-22-0488

いっばんしゃだんほうじん

一般社団法人 まなびのみなと

～豊かな食の島がつくる、豊かな学びの原体験～



若手農家から紅茶原材料となる柑橘の仕入れ



大崎上島の土産品「島の柑橘紅茶」

経緯

- 生徒数減少で高校は統廃合の危機に直面。地域を学びの場とした教育活動を特色とし、県外からの進学を希望する生徒が増加したが、島内進学者は伸び悩んでいた。
- そこで「食」という身近な題材を切り口とし、島内の小学生に地域で学ぶことの意義と魅力を届ける「大崎上島町食育プログラム」の開発が始まった。

取組内容

- 食に関わる地域資源を教育資源として活用。島内の小学生に向け、「事業者と出会う→収穫→調理→食べる」の一連の体験を提供。
- 約半年かけ柑橘紅茶を開発。関わった高校生は、授業で規格外品が低価格で取引されていることを知り、意図的に規格外品柑橘を仕入れ、ジャムの加工過程で廃棄部分として発生する柑橘の皮を地域の店舗から譲り受け、紅茶の原材料として使用。

活動の効果

- 大崎上島町食育プログラムでは、参加する小学生にとって、「地域で学ぶ」を体現する高校生の姿は最も近いロールモデルとなり、高校生にとっても、プログラムの設計・運営に携わることは、学校外での学びの機会・実践の機会となりうる。
- 令和4年度は法人主催のプログラムとして実施。町としての実施意義が認められ、令和5年度より大崎上島町の事業とし、法人が委託を受ける形で実施。
- 一次産業と教育の融合型プログラムの一環として、島内の高校生が廃棄予定の柑橘を島の農家から買い取り、県内の茶屋やデザイナーと協力し島の柑橘紅茶を開発・製造・販売。柑橘の新たな見方を島内外に発信し、島の一次産業の活性化にも寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

紅茶開発は、完成した商品を通し、高校生自ら、柑橘や農業の新しい「見方」のきっかけを創り出し、柑橘や農家の「味方」になることを目指す。

住所・電話番号・SNS等

豊田郡大崎上島町中野1871-1 MAIL: manabi.no.minato@gmail.com

あるぎじちしんこうかい

有木自治振興会

～都市住民と過疎化に悩む農山村の掛け橋に～



ビレッジハウス仁吾川(旧有木小学校)



イベント(魚のつかみどり体験)

経緯

- 都市と農村の交流による地域活性化の取組を実践し、平成18年度からは、田舎が抱える悩みと都市住民が求める思いの掛け橋ができればと、田舎応援団「あるぎ倶楽部」を結成。
- 簡易宿泊施設「ビレッジハウス仁吾川」を活動拠点として、地域の魅力を生かしたイベント企画・実施など、関係人口の増加を図る。

取組内容

- 都市住民と地域住民との協働で農山村の農地等の維持管理保全活動を行い、遊休農地を活用した農作業体験など、ふるさと保全に関心のある都会の人が活動。
- 耕作放棄地の増加を防ぐため遊休化する農地を活用し、地元農家の指導により約30種類の野菜を栽培、現在約30aまで拡大。
- 「蛍ツアー・夏ツアー」などのイベント企画・実施など、いつでも賑わう場を創出することにより、関係人口の増加を図る。

活動の効果

- 地域住民には遊休化する農地の活用のあり方を提案することができた。
- これまで地域住民だけで実施していたイベントに、都市住民が積極的に参加することで、担い手不足の中、地域住民の負担が軽減され、参加者は日頃味わえない自然とのふれあいや、地域住民との交流を楽しみながら、過疎化に悩む集落の活性化(賑わいづくり)にも貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

太陽がおはようと微笑んだら外に飛び出してみよう！

この素晴らしさは、何ととっても、自然の多さです。家を一步でると、都会では絶対に手に入らない素晴らしい癒しの空間が広がっています。

住所・電話番号・SNS等

有木自治振興会ofビレッジハウス仁吾川 <https://arugi-village.com/index.html>



かぶしきがいしゃ びんご
株式会社 BINGO

特別賞

～地域の猪の有効活用と、地域の課題解決～



焼肉用に処理された猪肉



ペットフードプロモーション活動

経緯

- 備後地域では年間約9000頭の猪が有害駆除されてきたが、処理施設等が無いことで9割は捨てられていた。また、狩猟者の高齢化で捕獲後の個体処理が課題であったため平成30年に福山市、令和5年には神石高原町でジビエ処理施設「備後ジビエ製作所」を立ち上げた。
- 福山市施設は食肉、神石高原町施設はペットフードへ加工する。

取組内容

- 捕獲した有害鳥獣の有効活用化と、高齢狩猟者の負担軽減・若手狩猟者獲得を目指し、地域の有害鳥獣被害を軽減。
- 狩猟者は有害鳥獣捕獲後の処理に困っていることから、現場まで出張し、止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して行う。
- 地域での罠設置代行や自社での有害鳥獣捕獲活動も行う。
- ジビエ肉は食肉としての輸出が難しい為ペットフードの輸出を香港と定期的に行う予定。

活動の効果

- 高齢狩猟者の負担軽減・若手狩猟者の獲得・捨てられていた命の有効活用を3本の柱として運営を行っており、備後地域全域の課題を解決。
- 職業猟師を目指す移住者が多く、全国各地から多様な人材が移住し従事。また、ペットフード製造業務や解体処理業務で応募する女性も多く、女性従業員比率が約5割あり、女性の活躍により女性目線の商品開発に成果。
- 食肉とペットフードに分けて販売を行うことで、それぞれの顧客の満足度が向上。

応募団体からのアピール・メッセージ

当プロジェクトは事業として成立しなければ存続することができず、地域で広がった協力の輪も消えてしまうことになる。私達は、今後さらに地元ジビエ肉の情報を全国に発信して、売上の拡大を図る事で地域の課題解決・雇用促進に励んでいきます。

住所・電話番号・SNS等

<https://bingogibier.com/> <https://bingogibier.com/gibione/> <https://www.instagram.com/bingogibier/>

記念賞
応募あわたがわりゅういきのうち・みず・かんきょう まも かい
栗田川流域農地・水・環境を守る会

～地域資源を活かす有機の里～



令和5年・34回目の田植交流会



水路の落ち葉収集と堆肥化

取組内容

- 地域資源を活用した米生産の実践と、環境に配慮したSDGsの取組。
- 生産者・消費者との農業交流を目的に、春の田植交流会、秋の収穫感謝祭を継続して実施。
- 小学校、保育園、一般消費者に向け、農業体験を通じた食育、農村文化の伝承。

前回選定後の情報発信の取組

- SDGsの取組や子供たちが米作りを学べる動画などを多数作成し、DVD、ホームページ、YouTubeなどで発信。
- 広報誌「栗田川流域通信」を発行し、食農教育、農村文化、農業・農村・環境を守る取り組みなどを紹介。
- 広島県内の新聞各社に掲載、また数社のテレビ局放映計5回。
- G7広島サミットにおいて当地域のお米が使用された。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 地域資源の循環活用～水路の落ち葉、牛糞、もみ殻燐炭、竹パウダーなど地元有機資材を堆肥化し、米作りに活用。稲わら、畦畔草を和牛に給与している。
- SDGsの取組み～メーカーや農業指導機関と連携し水稻の展示ほ場で行った肥料・農薬の試験結果は、JA米の栽培ごよみの指針となった。スマート農業、マイクロプラスチック削減、ネオニコチノイドフリー栽培にも取り組んでいる。
- 農村交流の取組み～田植え交流会は34回を迎え、農村と都市の関係人口の拡大。

応募団体からのアピール・メッセージ

消費者と交流し情報交換を続けたことが、ネオニコチノイドフリー米の販売やGAPの取得につながった。

今後も交流会や食育を通じ、農村×都市の人の結びつきを広げ深化を続けたい。

住所・電話番号・SNS等

庄原市東城町栗田2939(株式会社藤本農園内) Tel:08477-2-2528

記念賞
応募

つなみしんこうかい

津浪振興会

～農村の原風景を維持し、住みよい誇りの持てる地域づくり～



ぷらっとホーム12周年



希少植物保護活動

取組内容

○産直市と交流施設「ぷらっとホームつなみ」を中心に、春はカタクリ等希少植物保護活動、初夏にホタル観賞会、小学生による、さつま芋植え付け体験や夏休みに太田川でのアマゴつかみ取り体験交流、秋には神楽の伝承活動等を行い、地域を活性化する取り組みを継続している。

前回選定後の情報発信の取組

○希少植物の保護活動を継続し、看板を整備することで、毎年観光客が増加し、ホソバナコバイモ・カタクリの開花時には、毎年地元新聞で取り上げられる。
○「ぷらっとホームつなみ」に令和5年8月、地域おこし協力隊員の派遣が決定し、これまで取り組めていなかった情報発信を行うことで、新たな客層の開拓に繋げ、さらに売り上げ増を図っている。

前回選定後に発展させた取組及び成果

○タガメやゲンゴロウ等水生生物の復活を図るため、広島女学院大学と連携しビオトープ整備に取り組む。隣接の畑で小学生と、さつま芋の植え付け等に取り組み、食について体験を通じた学習に取り組む。学生との交流により地域に活気が生まれた。
○活動を継続することで、「ぷらっとホームつなみ」は、売り上げを伸ばすことが出来ている。特に移住者の方が野菜や加工品等の販売先として期待されている。
○令和4年「つなぐ棚田遺産」の認定を受け、景観維持の励みとなっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

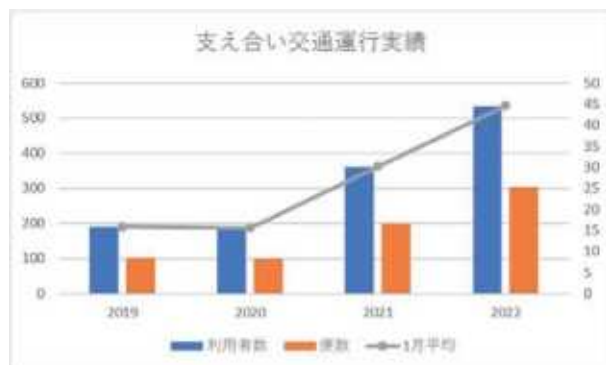
自治振興組織「津浪振興会」は昭和15年の創立から80年以上となり、430年の歴史持つ「津浪太鼓踊り」は県無形民俗文化財の指定50年を迎え、継続した活動が地域に誇りを与え、そして地域活性化に繋がっている。

住所・電話番号・SNS等

安芸太田町津浪517 Tel:0826-22-0893

記念賞
応募かわにしじちれんごうかい
川西自治連合会

～生活拠点の新たな活用を目指して動き始めた～



支え合い交通利用実績の推移



川西あずきプロジェクト

取組内容

- 住民出資の経済組織「株式会社川西郷の駅」と地区全体で構成する自治連合会の2層構造により、農地・農業を守り、雇用の創出と地域内の経済循環を形成。
- 少量多品目の農産物でも収益があげられるように、農村型コンビニを中心に、産直市、軽食堂部門などを併設した、地域生活交流拠点「川西郷の駅」を運営。

前回選定後の情報発信の取組

- 地域内外の人と、交流のきっかけの場を作るために、令和5年度から「お出かけカフェ」を立ち上げて、新しい出会いや昔馴染みとの再会を楽しんでいる。
- 川西郷の駅でかしわ餅や草餅を製造して販売しているが、その原料である小豆をすべて地元産に切り替えることを目標に、「あずきプロジェクト」を設立し、ふるさとの小豆を復活させようとチャレンジしている。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 平成29年12月から実証試験をスタートした移動サービス(支え合い交通)について、利用者から「地域にとって必要なサービスだ。」などと好評であったことから、地域の農事組合法人などと連携し、「支え合い交通未来検討会議」を立ち上げ、移動サービスの持続的なサービスのあり方を検討するなど、中山間地域の地域経営という形が出来つつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

川西地区では、どんな未来が来ようとも、自分らしく、いきいきと暮らし続けることができる地域を目指し、自ら複合的なサポートができる仕組みを作り、行政の支援や企業の知見も得ながら、自分たちで地域経営のあり方を今後も考えていく。

住所・電話番号・SNS等

三次市三若町2651-1 Tel:0824-69-2526

